

第6回行革審意見要旨（ユニークベニューの推進）

1. 駿府城公園の今後の方向性について

（駿府城公園の現状について）

（小林委員）

- イベント等がない限り市民にほとんど利用されず、非常にもったいないと感じた。以前は、テニスコートや球場等があり、利用できる公園だったが、誰が使うのか中途半端な公園となっている。
- 子どもを連れて行くが、小さな売店があるだけで何もすることがない。また、計画に基づき、整備しているが、どこに向かっているのか分からない。他都市の公園と比較し、面積が狭いのでいろいろな要素を詰め込むとインパクトがないので、歴史を感じられる場所に絞ったらどうか。

（内野委員）

- 市が目指すまちづくりにおいて、駿府城公園が活用されているか疑問である。多くの市民が利用しやすい場、生きがいや交流の場など、複数の要素を有した公園が望ましい。

（西村委員）

- よく観光地にある、がっかりするような施設という印象であった。また坤櫓の今昔スコープにかなり設備投資をしていると思うが、費用対効果の面で疑問である。
- 首都圏では駿府城公園の認知度はかなり低く、金沢城公園や名城公園と比較しても認知度は低いため、歴史という側面では負けてしまう。また、歴史文化のまちの発信は重要であるが、あえて駿府城公園から発信することは疑問である。5年、10年、30年後に市民が価値を見出せるか、駿府城公園の果たす役割について、これからを担う若者に意見を聞いたらどうか。
- 他都市には人が集まる公園があるが、市には休みに出かけたくなる公園がない。例えば、外国資本のコーヒーショップを設置は好ましくないなどの意見はあるが、人が集まる要因は、理屈や昔からの価値観と違うところにある。価値観が大きく変化する時代なので、一旦、整備計画を見直し、有効活用の方法を外部だけでなく、内部でも議論するべき。

（種本委員）

- まちづくりのコンセプトを考えるには、全国のデベロッパーから提案を募れば、想像できないアイデアも出てくる。一番いいものを選び、市民の声を聞きながら進めればよい。公園があればいいのではなく、観光、まちづくりの都市間競争の一要素なので、駿府城公園が一番になるには、最も優れたプロに任せることがいい。

(狩野委員)

- コンセプトについては、駿府城公園の再整備のうち、市が重要なものを内部で検討した後、デベロッパーに任せる方がよい。駿府城公園は目的が明確でないまま、整備を進めた結果、現状となっている。基本方針の方向性が3つあるが、市民は興味があれば、公園に出かけるため、市民に血の通ったサービスを別に考えてもいい。駿府城公園のあるべき姿を市民の意見を伺いながら、デベロッパーの意見を取り入れ、市が調整しながら進める必要がある。

(酒井委員)

- 駿府城公園は街中でいい場所にあるのに、もったいないという印象を持った。また、職場の人も公園内施設を見たことがなく、いい施設ではあるが知られていない。それは、いろいろな人に対応しようとするあまり、かえって魅力のない施設になっている。坤櫓、紅葉山庭園もいい施設だが歴史的背景が見えず、来場者に訴えるものがない。
- 公園整備の本格的な将来構想は、行革審での貴重な意見を受け止めた上で、もう一度検討すべき。整備計画は見直し後、20年以上経過しているため、時代の変化を掴んでいない。考え方が変化中、多少の反対意見はあると思うが、外部の意見も踏まえ、見直しが必要である。

(的場委員)

- 今後、駿府城公園に多額の経費を投入する必要性を再検討すべき。また、これまでの整備の効果を、どれだけ検証しているか疑問である。世の中の状況や価値観はかなり変化しており、現計画のままでいいか再評価・再検討することが必要である。
- 駿府城公園はコンパクトな城址公園であるが、3つの方向性を全て満たそうとすると中途半端になるため、1つに絞りアピールすべき。その際、市民の考えを再度調査することが必要である。行政でコンセプトを作ることは、限界があるためコンセプトを決定した後、民業者の知恵やアイデアを活用する方がいい。まず、駿府城公園は何を目指す公園にするか検討が必要である。
- 大阪城公園には休憩所、食事処、周辺に駐車場もたくさんあり、アクセスもいい。また、周辺にはホールや近代的なビジネスパークなども集積しているため、駿府城公園も点でなく、面で考える必要がある。静岡駅から駿府城公園までの導線に、いろいろな施設があれば、観光客が訪れると思う。

(駿府城公園のコンセプトについて)

(岩崎会長)

- ユニークベニューは特別な場所をどう利用するかであるが、前提として駿府城公園が誰のための、何を目的とした施設なのかコンセプトを明確にすることが、委員の共通認識である。また、市民アンケート結果から3つの方向性に基づき整備してきたが、人口減少が進行し、都市間競争が激しくなる中、整備方針の見直しとコンセプトの絞り込みが必要である。
- 基本方針策定(昭和63年)後、計画を見直し(平成17年)しているが、日本や市の状況の変化で一番大きな要因は、人口減少問題であり、静岡市は最も人口減少が激しい都市の1つである。そのような状況下で街中にある歴史的な公園の今後のあり方は重要である。
- プロであっても、コンセプトから考えることは難しい。プロセスは重要だが、やはり市や市民の考え方など、ある程度コンセプトを主体的に考える必要がある。例えば、企業は理念が大事であり、市の経営においても同様である。ただし、時代や環境の変化に対応することも常に考えなければならないが、コンセプトは非常に重要である。
- 再整備計画の基本方針に掲げる「歴史的遺産の保存・再整備」と「都心部の公園機能の強化」、の2つを同時に実現する公園を考えると、例えばニューヨークのセントラルパークは全く歴史的でなく、単なる森であるが、それを臨むレストランやカフェ、美術館などの施設があり、借景としてまちが作られているので、魅力的ですごく人が集まる。一方で、フランスのフォンテーヌブローは、歴史的なものだけであり、全く公園ではない。歴史的な遺産の構築と、人が憩うための公園は本当に両立するか疑問である。
- 駿府城公園は15ha程度であること。また、市民アンケートを基に基本方針を策定が、意見の集合に過ぎない。この時代に街中にある公園を、都市のためにどう活用するかという視点から考えると、全く異なる3つの方向性を完璧に並存させることは難しいため、一番重視する点について考える必要がある。
- 既に歴史的建造物は幾つか復元し、今も発掘調査をしているので、どう活用するかを再度、真剣に考えた方がいい。ユニークベニューとしての活用方法を検討する前に駿府城公園のあり方を議論するべきである。
- コンセプトは非常に重要であるが、従来の整備方針の考え方は今の時代では少し変化している。また、重点的に進めるコンセプトとしては、「歴史的遺産の保存・再整備」、「都市部の公園機能の強化」の2つは融合できるので、その運営方法を検討することも1つの方向であることを結論としたい。

(的場委員)

- 一番大きな社会状況の変化は少子高齢化に伴う人口構造の変化であり、いかに若者達や地域外の人をまちに呼び寄せ、引きつけるかが課題である。特に、高齢者が自然に増える中、若者を引きつけるには、歴史と現代をマッチングする公園になれば、お年寄りから若者まで全ての年代層の方が興味を持つのではないか。「歴史と現代のマッチング」、「歴史と現代の調和」という方向性が考えられると思う。

-
- 他都市の事例や近隣市では公園内のカフェの出店があるが、とても綺麗であり、人を引きつける。若者達には、公園のきれいな景色を見てカフェで過ごすことは、非常に素晴らしいゆとりの時間、癒しの時間である。歴史の中に近代的なカフェなどの飲食できる施設を持ち込むことも、歴史と現代のマッチングの一つと言えるのではないか。

(酒井委員)

- 人口減少の原因をきちんと把握し、データ分析に基づいた対応が必要である。働く場所やまちに魅力がなく、大学卒業後に静岡市に戻らないという事実があれば、それらの期待に応えられる方向性を示すべきである。素晴らしい公園があるから、訪れたいと思わせる工夫が必要である。

(狩野委員)

- 市の中心部にオープンスペースがないため、避難スペースの確保が重要である。防災対策は人の命に関わるため避難地の確保が先決事項である。また、市民に還元できる公園として、朝市やフリーマーケットなど、市民が盛り上がるイベントを年中開催できる公園が望ましい。

(種本委員)

- コンセプトを考えるのが一番難しいため、委員の意見をプロフェッショナルである業者に伝え、コンセプトを提示してもらえばいい。「この公園があるから、このまちに住みたい」というキャッチコピーを考えた。防災機能、歴史的価値もある世界に誇れる公園、どこよりもかっこいいカフェがある公園など、Iターン・Uターンしたい、新幹線通勤しても住みたいと思える公園とは何かをディスカッションし、コンセプトが設定できれば楽しいのではないか。それを民間業者などのプロにまとめてもらえば良い。

(西村委員)

- 既に再整備の際に、外部のコンサルが関わっているが、金沢などの城下町と同様の内容であり、最初のコンセプトのアピールが弱かったのではないか。歴史文化をアピールしても金沢や京都には負ける。静岡は、本当に住みやすいまちであるため、「住みやすい」というキーワードで食べ物や人などいろいろな事柄を繋げれば、全国や首都圏から人が殺到する程のポテンシャルがあると思う。
- 家康が最後の居住地に選んだことから、「住みやすさ・生活しやすさ」に全てが集約されている。「住みやすさ」を発信できる場所をコンセプトに公園のあり方を考えればいい。都市間競争で勝つにはやはり「住みやすさ」であり、静岡市は上位にランキングしている。山と海、ある程度の都市機能もあるため、客観的な結果となった。もっと積極的に日本一住みやすいことを発信し、その一つのコンテンツとして公園を位置付けてもいい。

(内野委員)

- コンセプトを決める際、市民アンケート結果をクラスター分析し、市民が求めるものを採用することで一定の説明責任は果たせる。大きなテーマは人口減少であり、そのテーマの下に現在の3つの方向性があると思う。若者が未来を楽しむ場所、例えば国家レベルでIoTの実験場にしてもらうことも面白い。現代に即した面白い仕組みを取り入れるようなコンセプトが設定できればいいと思う。人口減少対策では、付加価値を高め、

生産性を高めることが手段であるため、IoTやICTの活用というコンセプトが一つあってもいい。

(小林委員)

- 静岡市全体のまちづくりのプロデューサーがいないと常々感じている。ある程度専門的な知識を持ち、市民のコンセプトを汲み上げ、都市間競争を勝ち抜き、世界に魅力ある都市にするプロデューサーが欲しい。
- コンセプトでは、静岡市の魅力を発揮する意味で、「徳川家康が愛したまち」という歴史感を出す必要がある。多くの市民は、静岡市にはポテンシャルがあると感じているが、これまで取り組んでいなかったため、積極的にアピールして欲しい。
- 3つの方向性に基づき整備してきたことは理解できるが、「歴史的遺産の保存・再整備」で「歴史的建築物は史実に基づき復元する」ことが、ネックになり天守閣も作れないため、「復元」の部分は見直すべき時期に来ている。また、防災の機能は必要である。
- 人口減少対策を進めるには、静岡市を賑わいのあるまちにする必要があり、買い物客も増え、雇用も生まれる。静岡市の未来を活かすも殺すも駿府城公園のあり方次第と言える程のポテンシャルがある。また、近隣の体育館を「駿府城アリーナ」、文化会館を「駿府城ホール」という名称にすることも大事である。周辺の臨濟寺や浅間神社、浅間通りなどを含めて歴史を感じられるまちにして欲しい。

(コンセプトの視点について)

(岩崎会長)

- 市が目指す「歴史文化の拠点づくり」のコンセプトの上位にある政策課題は、人口減少社会にどう対応するかであり、アトラクティブな、魅力的なまちづくりを目指すことである。各委員の意見も、若者がここで暮らしたい、訪れたいと思う魅力的なまちづくりにすることである。
- 市では、観光交流人口の増加・市民の生活者の双方の視点から、「歴史文化の拠点づくり」を進めるとしているが、海外の人気スポットも観光地として美化された街ではなく、生活者の暮らしそのものを観光客が楽しむことである。このため、観光客と市民生活は融合できると考えるが、融合していくというコンセプトは必要である。その際、市民に対し、公園内行為について一定の制約も検討する必要がある。また、生活感を強調しすぎると観光客が来なくなるので、必ず融合はできるがある程度行政のリードが必要である
- ニューヨークのセントラルパーク周辺の住人が朝散歩する時のファッションはハイセンスである。それがニューヨークの街、ライフスタイルそのものであり、それが見られることが魅力である。静岡市は全国でもファッションセンスがいい街として有名なので、例えば駿府城公園に出かける時はおしゃれをするような街になれば費用をかけず、すぐ有名になれる。簡単にできることなので、検討して欲しい。
- 静岡は東京と比較し、着飾る機会が非常に少なく、若者にとって魅力がない理由の一つである。また、若者が週末に何もすることがないと良く聞く。なぜ若者が静岡に戻らないか考える必要がある。仕事だけでなく、余暇の過ごし方の選択肢に圧倒的な違いがある。週末に音楽を楽しめる、雰囲気良く憩いの場となる公園などを考えることが大事。歴史文化の拠点にこだわり過ぎると、若者が離れていくことが懸念される。

(小林委員)

- 歴史的建造物を「史実に基づき復元」することは無理があるが、「静岡流」として、「歴史的遺産の保存・再整備」と「都心部の公園機能の強化」の両方を満足させる方策を一つの方向性として考えることはできる。歴史もあり、市民も憩うことができ、なおかつ緊急時には防災の拠点とすることも可能である。
- 市民の憩いの場には、休憩場所や飲食できる場所が必要であり、子供が遊ぶスペースを加えることもできる。ウォーキングもブームなので、電車で来て楽しんでもらうまちも考えられる。健康と歴史、買い物や飲食も楽しめるまちを、現計画に加えれば面白い公園ができる。ただの広場ではなく、大人も子供も楽しめる要素を入れた方がいい。

(内野委員)

- 「防災機能の確保」は、緊急時にスペースがあり避難でき、物資・情報連絡の拠点にすればいい。「歴史的遺産の保存・再整備」は、「史実に基づき復元する」部分にこだわりすぎず、拡大解釈して賑わいと繋げる観点から、歴史の捉え方を未来の歴史を作るような方向性にすればいい。過去の歴史ばかりでなく、歴史を拡大解釈する方がいい。賑わいづくりのために歴史を利用するという観点を踏まえ、「歴史的遺産の保存・再整備」と「都

心部の公園機能の強化」を上手く融合できればいい。

(西村委員)

- 駿府城の歴史に対し全国の人が感慨を抱くか疑問である。市民の憩いの場、静岡市の住みやすさを発信することが必要である。静岡の人はイベントがあると人が集まる。ホビーフェアでは、ガンダム一つで全国のホビーファンを多く集めてしまう。一般的な感覚ではなく、自分たちのまちの属性を研究した上で考えていく方がよい。地方創生では、以外なもので人が呼べるという事例が幾つもある。個人的には「都心部の公園機能の強化」が重要であると思う。

(種本委員)

- 人口減少は全国地方都市の共通課題であり、人口の奪い合いだと思う。特に若者に来て欲しいが、歴史的建造物があれば静岡に来るのか。天守閣を作れば人が来るという安易な時代はもう終わった。どのような公園があれば若者の人口が増やせるか考えるべき。若者は税金を天守閣に使うより、子供や子育てしやすい憩いの場を望むと考える。
- 1つ選択するならば、市民のために考えた公園と感じられる、市民の憩いや楽しみの場として整備することを重視するべき。防災はインフラだけでなく、災害時の運用などソフトを含めた全体の問題であり、市がどれだけ防災に取り組み、住むのに安全かを考える必要があるため別の議論。歴史的建造物と市民の憩いの場のどちらを選択するかと言えば、おそらく若い子育て世代は後者を選ぶ。

(狩野委員)

- 3つから択一する必要はなく、歴史、公園、防災を上手く調整することは可能であると思う。紅葉山庭園は、多額の経費を投じた宝の山であるが、パンフレットでも触れられていないので、もっとPRした方がよい。

(酒井委員)

- 若い方が将来住みたいと思えるまちづくりという観点から、やはり「都心部の公園機能の強化」が中心になってくる。防災機能は、周辺の施設等との連携で対応できる。

(的場委員)

- 公園の設置目的は憩いや潤い、癒しを与える空間を提供することであり、偶然、駿府城公園が城跡であった。根本に立ち返り、豊かな憩いの場の提供を中心に考えるべき。古い歴史に新しいものを採り入れ両立している事例として、パリのルーヴル美術館のコンセプトは「未来へ向かう古の美術館」である。パリで最も古い公園に近代的なカフェやレストランがあり、子供を連れ遊ばせるスペースも完備している。
- 歴史と近代を上手くマッチさせ人を集め、未来へ繋げるコンセプトで運営されている。世界には古いものと新しいものを上手く融合させ、歴史的な価値も持たせ、未来へ引き継いでいく場所もあるので、参考に検討すべきである。ただし、コンセプトの中心は、公園本来の目的である市民に憩いを与えることであり、たまたま歴史的建造物のあった場所だということでのよい。

(ユニークベニューについて)

(岩崎会長)

- 施設の具体的な使い方やイベントの実施方法等は素人が考えるのではなく、コンセプトがしっかりしていれば、むしろコンペで外部に委託した方がいいことは明確である。コンセプトを明確にし、実施内容は次の段階で検討すればいい。

(小林委員)

- ユニークベニューは、今回の提案を含め積極的に進めて欲しい。いずれの提案も既に実施されていないことが不思議である。ただし、ユニークベニューを進める際は、駿府城公園の関係部局だけでなく、市職員全体が公園を訪れ、いろいろなアイデアを募集・提案することが大事であり、市が一丸にならないと市民を巻き込むことはできない。
- 紅葉山庭園や東御門・巽櫓などは、スペースが限られているため、現状でユニークベニューを進めることは難しい。ただし、坤櫓は階段が急ではあるが2階、3階が見学できるようにしたらいいと思うが、現状では、お金を払ってまで見たい施設ではない。
- 現状の施設を活かし、人を集めるなら他都市で例のないものもいい。ユニークベニューで唯一面白いものは、発掘調査の現場が見られることである。駿府城の発掘は多くの人に関心を持っているが、見せ方がよくない。ウォーキングも流行っているので、発掘調査が数年続くので上手く利用し、浅間神社や臨濟寺を含めて歴史探訪ができれば、市内外から参加すると思う。
- 大河ドラマゆかりの地で、駿府城公園の紹介の際に、公園内の遊具が映ったことが残念であった。歴史を感じられる、木の遊具や城をイメージしたデザインにして欲しい。青空カフェも、キッチンカーを城のようなデザインにし、働く人も歴史を感じる格好で給仕するなど、駿府城跡地の公園である雰囲気も発信してほしい。

(内野委員)

- 提案された事業は面白い事業であるため、是非、取り組んでいただきたいが、ユニークベニューを進める際は、いろいろな事業を提案できるプラットフォームづくりが重要である。民間では、全国から施設の活用方法のアイデアを募集しており、他の自治体も活用しているため、静岡市もプラットフォームを設け活用方法については、一定の方向性に基づいた条件付けをすればいい。また、プラットフォームで市民アンケートを実施し、クラスター分析することで、市民意見も把握できるので、今後は、いろいろなアイデアが採り入れるための仕組みづくりを検討して欲しい。

(西村委員)

- 市からの事業提案のうち、「ボートによるお堀の活用」は楽しそうであるが、「青空カフェ」は、結局、何を発信したいのか分からず、寄せ集めの域を出ていないので、首都圏のマーケットを研究した方がよい。ランニング等環境整備は、既にお堀の周りを走っている人がいるので、上手く工夫すれば広く利用してもらえと思う。野外芸術公園化も、上手く展開できれば幻想的な空間を作り出せるのではないか。個々のコンテンツは、いろいろあるが、まずは多くのアイデアを募り、まとめていけばいい。あと、紅葉山庭園は、あまり使えない印象であった。

(種本委員)

- まちづくり事業を行う企業はまずコンセプトから提案し、その実現のために、周辺の住民やターゲット層、観光面でのターゲットなど、あらゆる要素を調査・分析し、その上でどういう店舗を入れるか各論の検討に入る。事業提案は、各論ではとてもいいが、前提となるコンセプトや誰に何を発信したいかが固まっていなく、いろいろな人がアイデアを出しているだけである。いずれも素人の提案とは思えない内容で感心したが、まちづくりのプロのコーディネーターを置いた上でアイデアを出し合う方がいい。

(的場委員)

- 事業提案はどれも素晴らしい提案であるため、進めて欲しいが、社会実験なども含め、事業評価をきちんとして欲しい。

(その他:公園の整備について)

(岩崎会長)

- 天守閣を建設するには、相当な財政支出が必要となる。市民が喜ぶことは無形のサービスであるが、市の健全経営を保つことができない。史実に基づかず、民間がアミューズメント施設として、天守閣を作るという意見ならば理解しやすい。駿府城の設計図などの根拠がないため、史実に再現することに、こだわる過ぎる点は検討する必要がある。

(小林委員)

- 今後の整備について、清水御門や二の丸休憩舎を作るのであれば、まず天守閣を作りたいということが多くの意見だと思う。駿府城公園を訪れる観光客の第一の感想は、城がないことである。観光客は城がないために帰るということも聞く。今後、駿府城公園の整備を進めるのであれば「駿府城」を柱とし、様々なイベントや周辺施設も含めた歴史を感じられるまちにして欲しい。
- 歴史を感じるには、天守閣がほしい。それが一つあれば十分歴史を感じる。清水御門は後から作ればいい。既に桜の木がたくさんあるし、紅葉もきれいだったと記憶しているので、これ以上木を植えて金沢の兼六園のようにする必要もない。そうすると市民の憩いの場ではなくなってしまふ。ここに天守閣があれば、駅を降り、呉服町通りを通過して駿府城公園まで来る人の流れはできると思う。
- 私も天守閣の建設は反対であったが、それは費用を投じて天守閣を建設してどうなるのかという理由であった。ただし、一番分かりやすく天守閣が一つあれば、5年程度は人が来る。その集まった人たちをどう回遊させ、リピーターを獲得するかを市民と行政が一体となり進めればよい。税金を投入するのではなく民間資金を使えばいい。行政では、維持管理費が必要で負担になる可能性が高い。民間は採算を考え、人を呼ぶ仕掛けもするので、そういう意味ではいい思い考えが変わった。

(内野委員)

- 「歴史的遺産の保存・再整備」は、「史実に基づき復元する」部分にこだわりすぎない方がいいが、天守閣を作るのであれば、100年、200年後に文句を言われたいよう、ある程度史実に基づいたものが望ましい。

(種本委員)

- 天守閣については大反対である。お金があるから作ればいいという問題ではない。人口減少対策とは人口の奪い合いである。特に若者に来て欲しいが、歴史的建造物があれば静岡にくるのか。以前、若いお客さんと掛川城に行ったが街はシャッター通りで、突然天守閣があり特になにもない。天守閣を作れば人が来るという安易な時代は終わった。若者は税金を天守閣ではなく、子供や子育てしやすい憩いの場に使って欲しいと考える。歴史的建造物と市民の憩いの場を選択する場合、若い子育て世代は後者を選ぶ。